



®環境省

エコアクション21

認証番号0000693

エコアクション21

環境経営レポート



2024年1月31日

株式会社菱進テック

当環境経営レポートの対象期間は2023年1月～12月です。

1. 会社概要

(1) 事業者名とエコアクション21の取組対象組織
株式会社菱進テック、全組織・全活動

(2) 代表者氏名
代表取締役 藤井 壮

(3) 所在地
〒793-0003
愛媛県西条市ひうち18番地9
Tel : 0897-53-9650 Fax : 0897-53-9655

(4) 環境管理責任者
正岡秀吾（環境課長）Tel : 0897-53-9686

(5) 環境担当者
高橋稔 Tel : 0897-53-9673

(6) 事業の内容
半導体のテスト事業・クリーン事業

(7) 事業の規模
従業員数 : 99人
延べ床面積 : 8,500m²

2. 環境経営方針

基本理念

私たちは、環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、社訓「人を愛する」「仕事を愛する」「地域を愛する」の三愛主義に沿って、半導体検査事業やクリーンソリューション事業を通じ、地域および地球環境の保全と社会への貢献を目指して自主的・積極的に取り組みます。

お客様のニーズを具現化し提供するだけでなく、環境負荷のより小さな方法を開発し提供することが重要な環境対策であると考え、従業員一丸となって、継続的に環境経営活動を推進して地球環境との調和を目指します。

基本方針

- (1) 当社の事業活動、製品及びサービスの環境影響を評価し、環境に影響のある次の項目について、中長期的に目標を定め、継続的改善と汚染予防に努めます。
 - ① 生産設備及び空調設備等に係わる電気エネルギー及び化石燃料の削減により、二酸化炭素排出量の削減を図ります。
 - ② 廃棄物の分別を行い、廃棄物排出量の削減を図ります。
 - ③ 総排水量（水使用量）の削減を図ります。
 - ④ 工場周辺の清掃を行い、周辺の環境と調和した景観を実現し地域社会に貢献します。
 - ⑤ 化学物質（P R T R法関連物質）の使用のないことを確認します。
 - ⑥ グリーン購入を積極的に行います。
 - ⑦ 当社が提供する製品の製品・サービスについて環境影響評価を行います。
 - ⑧ メモリー/ロジック製品からアナログ/パワー製品に比重を移していきます。
 - ⑨ エンジニアの高齢化に伴い、若手エンジニアへの技術継承を加速します。
- (2) 環境に関する法令、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- (3) 環境目標、行動計画を作成、実行、見直し、環境の維持向上を図ります。
- (4) 環境経営レポートを作成し、公表します。
- (5) この環境方針は全従業員（パート含む）に周知徹底するとともに、一般の人にも開示します。

2005年10月25日制定

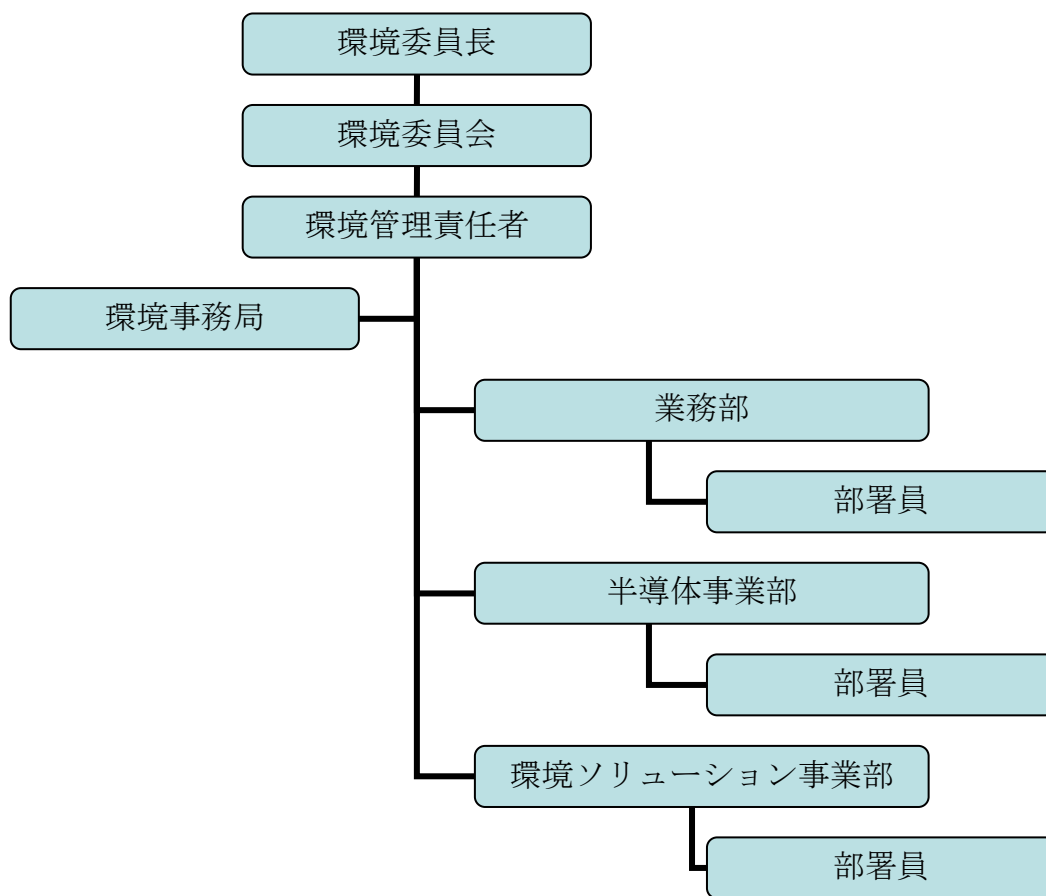
2023年 4月 6日改定

株式会社 菱進テック

常務取締役工場長 杉田 博

3. 環境活動組織

(1) 活動組織



環境委員長	工場長
環境委員会	工場長・各部門長・環境課
環境管理責任者	環境課長
環境事務局	環境課
業務部	業務部 部門長
半導体事業部	半導体事業部 部門長
環境ソリューション事業部	環境ソリューション事業部 部門長

(2) 責任・権限表

<p>環境委員長</p>	<p>環境活動に関する経営者としての責任を負う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針を定め、目標、環境管理プログラムと環境経営マニュアルを承認・決定する。 ・環境管理責任者の任命を行う。 ・環境活動実行のための資源（人的資源、専門技能、インフラストラクチャー、技術、資金を含む）を確保する。 ・環境経営システム及び当マニュアルの見直しを行い、環境活動組織の設置・改廃を承認する。 ・緊急事態発生時、環境管理責任者へ対応を指示する。 ・土壌汚染、地下水汚染等重大な環境側面の監視、測定結果の外部への公表の可否を総合的に判断する。
<p>環境委員会</p>	<p>環境活動取り組み状況の討議・協議・審議を行う。</p>
<p>環境管理責任者</p>	<p>環境委員長は環境管理責任者へ下記事項を執行するための役割、責任及び権限を他の責任に関わりなく与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション21の環境経営システムガイドラインの要求事項を確立し、その実施と維持の責任を負う。 ・当社の環境経営方針に沿って目標、計画を設定し環境委員会に提案する。 ・環境経営システムの活動実績を環境委員長に報告する。 ・環境経営システムが要求事項を満足しない場合や活動実績が環境管理プログラムを満足しない場合には、調査と是正報告書の作成を指示する。 ・環境経営システムの経営者見直し結果に基づく是正処置の実施を統括する。 ・緊急事態発生時の処置についてその状況確認を行い、指示を行う。 ・社外との環境に関する事項の連絡・報告・調整等を統括する。 ・緊急事態が発生した場合、状況を把握し、環境委員長へ報告すると共に、緊急事態に対する対応及び予防処置を実施する。 ・経営者の見直しに必要な資料を準備する。 ・菱進テック環境影響評価登録リスト及び法規制等要求事項登録表を承認する。 ・環境事務局の任にあたる社員を任命する。
<p>環境事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価を行い、環境影響登録リストを作成し、環境管理責任者の承認を得る。 ・環境法規制登録リスト及び法規制等要求事項登録表を作成し、環境管理責任者の承認を得る。 ・環境委員会活動における、各種事務業務を担当する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営マニュアル及び全社規定の制定、改訂を起案する。 ・外部審査及び社外との環境情報の対応窓口業務を担当する。 ・環境経営方針、目的、目標を周知させると共に、環境に関する一般教育を実施する。 ・環境管理責任者を補佐し、環境経営システム活動の推進を行う。
実行部署	自部署の環境改善活動を推進・監視し、環境管理責任者に報告する。
部署員	各自、部署毎に決めている環境改善活動項目について活動を実施する。

4. 環境活動の目標

環境側面		項目	基準値 2020～2022 年度実績の平 均値	2023 年度目標	2024 年度目標	2025 年度目標
半導体事業部 二酸化炭素排出量	絶対値 数値(kg-CO ₂)		6,212,036	-	-	-
	原単位 数値(kg-CO ₂ /時 間)		9.10	9.01	8.92	8.83
	削減率		-	1.0%減	2.0%減	3.0%減
環境ソリューション 事業部 二酸化炭素排出量	絶対値 数値(kg-CO ₂)		1,052,965	-	-	-
	原単位 数値(kg-CO ₂ /時 間)		16.18	16.02	15.85	15.69
	削減率		-	1.0%減	2.0%減	2.0%減
廃棄物 排出量	一般	数値(kg)	747	739	732	725
		削減率	-	1.0%減	2.0%減	3.0%減
	産業	原単位 数値(kg/時間)	0.630	0.624	0.617	0.611
		削減率	-	1.0%減	2.0%減	3.0%減
水使用量 原単位 (総排水量 と同じ)	上水	数値(L/人・日)	40.3	39.9	39.5	39.1
		削減率	-	1.0%減	2.0%減	3.0%減
	工水	数値(m ³ /時間)	0.523	0.518	0.513	0.508
		削減率	-	1.0%減	2.0%減	3.0%減
グリーン購入	グリーン購入の実態を調査し、グリーン購入を推進する。 グリーン購入は全体の30%を目標とする。					
化学物質	化学物質(PRTR法対象物質)の使用のないことを確認する。					
製品・サービスに おける環境評価	製品出荷時の通い箱使用の徹底と製品運搬トラックの省エネ運転の周知。 ウエハテスト工程の工期を守る。 電気使用量の少ない検査装置での製品を増やす。 若手への技術継承を加速する。 定期的な設備点検を行い、安定稼働を目指し、機会ロスの低減を図る。 再洗浄となる製品数を減らし、稼働時間及び電気・蒸気使用量の削減を行う。					
地域への貢献	工場周辺の定期的な清掃により、周囲の環境と調和した景観を実現する。 清掃は月1回実施することを目指す。					

※活動期間は1月から12月です。

5. 主要な環境活動内容

評価 ○：90%以上 △：90～70% ×：70%以下

(1) 二酸化炭素排出量の削減

No.	活動内容	削減効果	評価
①	製品の品種毎の流れ込み状況を調査・分析をして、テスター装置の運転台数を決めているが、調査方法と分析内容を強化することにより、運転台数を削減して、生産装置電力量を削減した。	目標：1,281MWh 実績：1,259MWh	○
②	WL25テスターの生産状況の管理を強化し、運転台数を削減して、生産装置電力量を削減した。	目標：21,600kWh 実績：46,957kWh	○
③	R1冷凍機の冷却塔更新で高効率モータに交換し、動力用電力を削減した。	目標：180kWh 実績：260kWh	○
④	荷物用エレベータを油圧式から機械室レスエレベータに更新し動力用電力を削減した。	目標：1,370kWh 実績：1,375kWh	○
⑤	工場内の蛍光灯照明をLEDランプに交換し、照明用電力を削減した。	目標：14,203kWh 実績：22,789kWh	○
⑥	工場内の誘導灯を蛍光管タイプからLEDへ変更し照明用電力を削減した。	実績：2,486kWh	○
⑦	総務事務所で、エアコンのこまめな電源OFFと、人が不在エリアの消灯を行うように、朝礼等で周知を行う。	—	○
⑧	環境課事務所で、人が不在エリアの消灯及び、パソコン未使用時のモニターOFFを行うように、朝礼等で周知を行う。	—	○
⑨	管理棟のブラインドはこまめな開閉を行い、室温を調整することで、空調用電力を削減するよう周知を行う。	—	○
⑩	使用していない設備の電源を切り、待機電力を削減するよう周知を行う。	—	○

(2) 廃棄物排出量の削減

No.	活動内容	削減効果	評価
①	古紙回収できる紙屑を分別し、紙のリサイクルを行うことにより一般廃棄物量を削減した。	目標：42.0kg 実績：48.4kg	○
②	シュレッダーダストを袋詰めし、荷物発送時の梱包材として使用し、紙屑の排出量を削減した。	目標：60.0kg 実績：62.0kg	○
③	部品等を購入した時に入っている、梱包材を、荷物発送時に再度梱包材として使用することにより、一般廃棄物量を削減した。	目標：6.0kg 実績：9.8kg	○

④	帳票を電子化して、電子化した状態で閲覧することにより、紙使用量を削減した。	目標：0.9kg 実績：1.1kg	○
⑤	シッピングレポートを保管用としてコピーする時に縮小して複数枚を1枚にまとめることにより、紙使用量を削減した。	目標：4.8kg 実績：5.3kg	○
⑥	作業日報や点検記録などの帳票を電子化し、紙使用量を削減した。	目標：9.1kg 実績：15.3kg	○
⑦	裏紙の使用及び、両面コピーを行うように、朝礼等で周知を行う。	—	○
⑧	電子媒体を利用して紙を使用した連絡を削減するよう、朝礼等で周知を行う。	—	○

(3) 総排水量（上水使用量）の削減

No.	活動内容	削減効果	評価
①	朝礼時、節水の徹底について月1回、周知実施。	—	○
②	トイレ及び洗面台の吐出流量の状況調査を実施。	—	○

(4) グリーン購入（環境にやさしい商品の優先購入）

No.	活動内容	削減効果	評価
①	事務消耗品の穴あけパンチ・電池・純正インク・蛍光ペン・レールホルダー修正テープ詰替え・スティックのり・セロハンテープ・テープカッター・テプラテープ・トイレトーパー・ビニールテープ・プリンタラベルシールのグリーン商品を購入。グリーン商品の購入率は、金額ベースで、34%となった。	—	○

6. 環境活動の目標と実績 (活動期間：2023年1月～12月)

判定 ○：達成 ×：未達成

(1) 二酸化炭素排出量

[購入電力の二酸化炭素排出量の係数は、四国電力の2020年度実績0.574を使用]

(1-1) 半導体事業部 (原単位はウエハテスト総時間：635,680時間を分母としている。)

2020年～2022年平均値実績原単位 (kg-CO ₂ /時間)	2023年目標原単位 (kg-CO ₂ /時間)	2023年実績原単位 (kg-CO ₂ /時間)	2023年実績絶対値 (kg-CO ₂)	判定
9.10	9.01	8.96	5,695,988	○

(1-2) 環境ソリューション事業部 (原単位は総生産時間：65,151時間を分母としている。)

2020年～2022年平均値実績原単位 (kg-CO ₂ /時間)	2023年目標原単位 (kg-CO ₂ /時間)	2023年実績原単位 (kg-CO ₂ /時間)	2023年実績絶対値 (kg-CO ₂)	判定
16.18	16.02	15.68	1,021,893	○

(2) 廃棄物排出量

(2-1) 一般廃棄物排出量

2020年～2022年平均値実績 (kg)	2023年目標 (kg)	2023年実績 (kg)	判定
747	739	734	○

(2-2) 産業廃棄物排出量 (原単位は総生産時間：65,151時間を分母としている。)

2020年～2022年平均値実績原単位 (kg/h)	2023年目標 (kg/h)	2023年実績 (kg/h)	判定
0.630	0.624	0.495	○

(3) 排水量

(3-1) 上水排水量 (1人・1日当り) 原単位

(注. 月末時点での延べ人：1176人、年間平均在籍人数：97.8人、日数：365日)

2020年～2022年平均値実績 (L/人・日)	2023年目標 (L/人・日)	2023年実績 (L/人・日)	判定
40.3	39.9	39.8	○

(3-2) 工水総排水量原単位 (原単位は総生産時間：65,151時間を分母としている。)

(注. 環境ソリューション事業部の水使用量32,626m³を総生産時間で割ったもの)

2020年～2022年平均値実績 (m ³ /時間)	2023年目標 (m ³ /時間)	2023年実績 (m ³ /時間)	判定
0.523	0.518	0.501	○

(4) グリーン購入

項目	内容	判定
目標	グリーン購入を推進する。	○
実績	グリーン購入対象品を優先的に購入することができた。実績は金額ベースで34%と、目標の30%以上を達成することができた。	

(5) 化学物質

項目	内容	判定
目標	化学物質（P R T R法対象物質）の使用のないことを確認する。	○
実績	化学物質（P R T R法対象物質）の使用のないことを確認できた。	

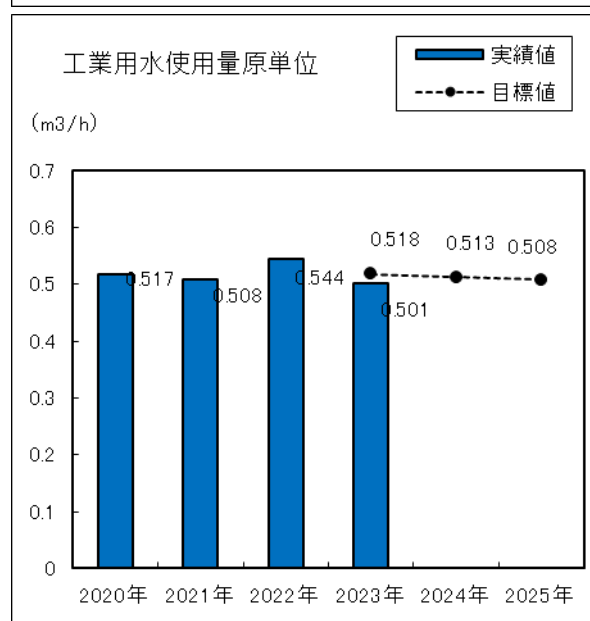
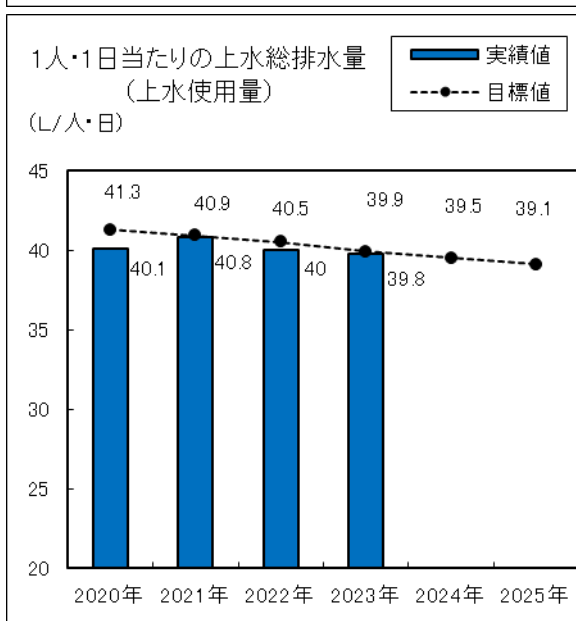
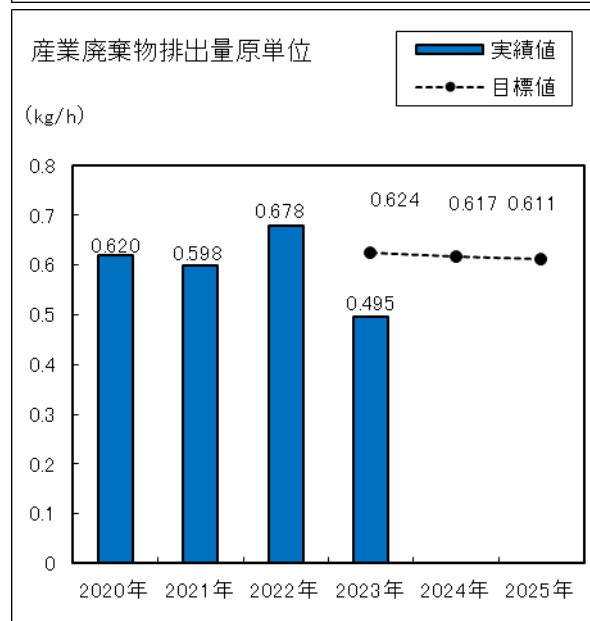
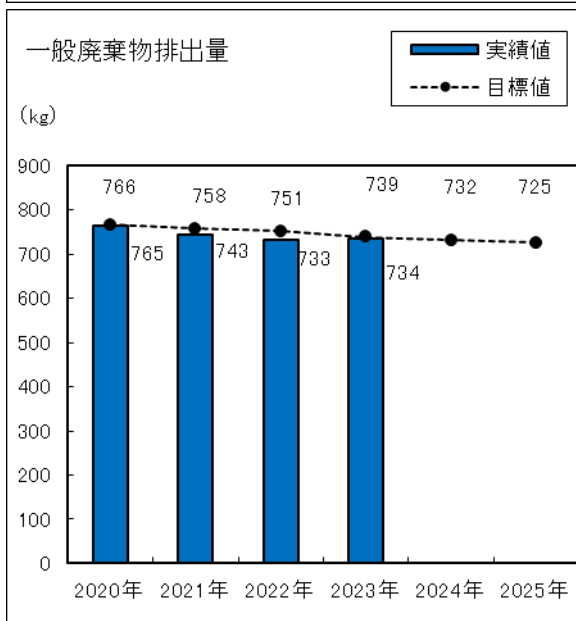
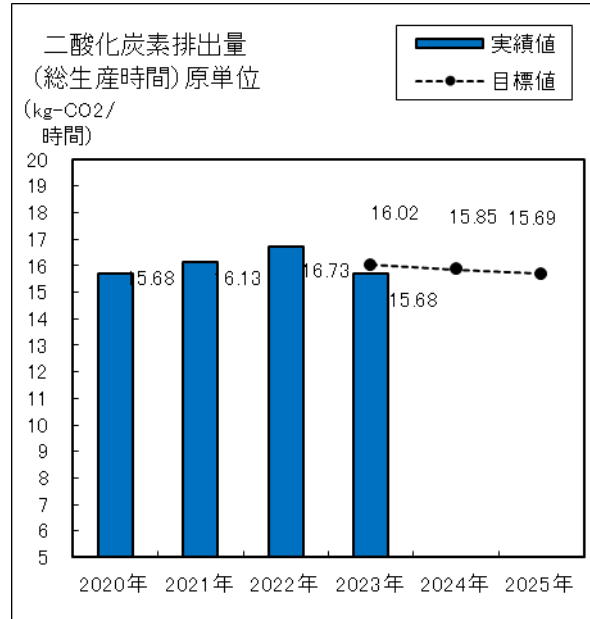
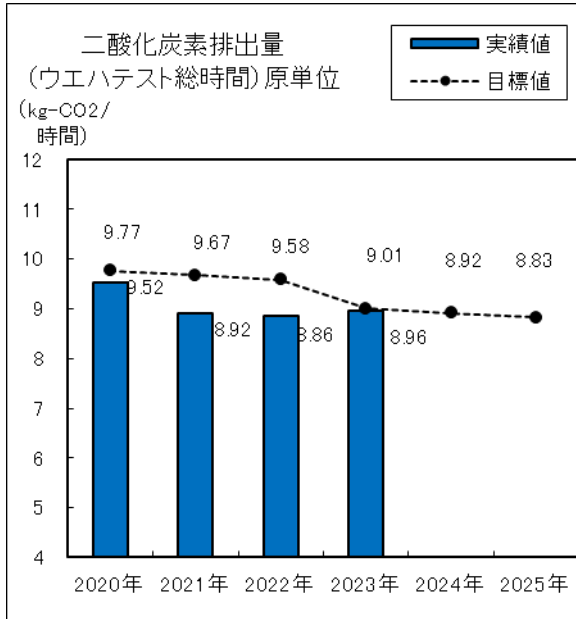
(6) 製品・サービスにおける環境評価

項目	内容	判定
目標	製品出荷時の通い箱使用の徹底と製品運搬トラックのエコドライブの周知。 ウエハテスト工程の工期を守る。 電気使用量の少ない検査装置での製品を全体の30%以上にする。 若手への技術継承を加速する。 定期的な設備点検を行い、安定稼働を目指し、機会ロスの低減を図る。 再洗浄となる製品数を減らし、稼働時間及び電気使用量の削減を行う。	○
実績	製品出荷時の通い箱使用の徹底と製品運搬トラックのエコドライブを実践することができた。 ウエハテスト工程の工期を守ることができた。 電気使用量の少ない検査装置での製品処理を増やすことができ、年平均で41.3%と目標の30%以上を確保することができた。 保全や技術的な知識などをリスト化し資料を登録・保管することで、ノウハウの見える化を進めることができ、若手への計画的な技術継承を行うことができた。 毎月の点検を行い、安定稼働を行うことができた。また再洗浄は月平均3件と目標の5件以下を達成することができた。	

(7) 地域への貢献

項目	内容	判定
目標	工場周辺の定期的な清掃により、周囲の環境と調和した景観を実現する。清掃は月1回実施することを目標とする。	○
実績	日勤者全員による工場周辺清掃を、年1回実施し、守衛担当者による工場周辺清掃を、月1回実施した。	

7. 環境活動の目標と実績の推移グラフ



8. 環境活動の取組結果とその評価、次年度以降の取組計画内容

(1) 二酸化炭素排出量原単位

①半導体事業部の二酸化炭素排出量（ウエハテスト総時間）原単位は、目標 9.01 (kg-CO₂/時間) に対し、実績は、8.96 (kg-CO₂/時間) で目標を達成した。また、環境ソリューション事業部の二酸化炭素排出量（総生産時間）原単位は目標 16.02 (kg-CO₂/時間) に対し、実績は、15.68 (kg-CO₂/時間) で目標を達成した。

②2023 年は、二酸化炭素排出量の削減について下記の活動を実施した。なお、電力に対し化石燃料による二酸化炭素排出量の占める割合が少ないため、電力の削減活動を中心に取り組んでいる。

- ・製品の品種毎の流れ込み状況の調査方法と分析内容について強化し、ウエハテスト装置の稼働台数を減らすことにより、生産装置電力を削減した。製造一部では秋口からの生産数の増加で、予定よりも生産設備の稼働台数が多くなり、目標未達となった。
- ・消費電力の小さなR 1 冷凍機について年間を通して優先稼働させ、消費電力の大きなR 3 冷凍機を稼働させないことで、動力用電力を削減した。
- ・エレベータを油圧式から機械室レスエレベータに更新し動力用電力を削減した。
- ・R1 冷凍機の冷却塔更新に伴い、省エネタイプの高効率モータを導入し動力用電力を削減した。
- ・工場内の蛍光灯照明を LED ランプに交換し、照明用電力を削減した。
- ・工場内の誘導灯を蛍光管タイプからLEDタイプへ変更し照明用電力を削減した。

③2024 年以降は、下記の活動により二酸化炭素排出量原単位を削減する。

- ・製品の品種毎の流れ込み状況の調査・分析内容を現在よりさらに強化して、生産装置運転台数を減らして、生産装置電力を削減する。
- ・各設備において、更新する場合は、省エネ効果について調査し、省エネ機器の導入を検討する。また、現在のエリアを有効活用することで、新たな空調動力を発生させないよう検討する。
- ・エレベータの空運転をなくし、荷物をまとめて入れることで稼働回数を削減し消費電力を削減する。
- ・工場内の蛍光灯を LED ランプに交換して、照明用電力を削減する。
- ・冷水二次ポンプをインバータ化することで、二酸化炭素排出量を削減する。
- ・ボイラーの稼働時間を適切に管理し、蒸気を使いすぎないようにする。

(2) 廃棄物

① 一般廃棄物排出量は、目標 747 (kg) に対し、実績は、739 (kg) で目標を達成した。産業廃棄物排出量原単位は、目標 0.624 (kg/時間) に対し、実績は、0.495 (kg/時間) で目標を達成した。

② 2023 年は、下記の活動により廃棄物排出量を削減した。

- ・紙の裏紙の使用の徹底及び、紙使用量の削減により、紙屑の排出量を削減した。
- ・シュレッダーダストを袋詰めし、梱包時のクッション材として使用することにより紙屑を

削減した。

- ・ 部品、治工具等の輸送時に使用されている梱包材は、梱包材として再使用することにより廃棄物排出量を削減した。
- ・ 古紙回収に出せる紙屑の分別を徹底し、紙屑排出量を削減した。
- ・ 工場内の照明を LED ランプに交換することで産業廃棄物となる蛍光管の使用を削減した。
- ・ 裏紙使用と両面コピーの使用について、朝礼時に周知し、紙使用量を削減した。
- ・ シッピングレポートを保管用としてコピーする時に縮小して複数枚を 1 枚にまとめることにより、紙使用量を削減した。
- ・ 帳票を電子化して、電子化した状態で閲覧することにより、紙使用量を削減した。
- ・ 電子メールなど電子媒体を利用して、紙の使用量を削減した。

③ 2024 年以降は、下記の活動により廃棄物排出量を削減する。

- ・ 古紙回収に出せる紙屑の分別を徹底し、紙屑排出量を削減する。
- ・ 部品、治工具等の輸送時に使用されている梱包材は、再び梱包材として使用することにより廃棄物排出量を削減する。
- ・ シュレッダーダストを袋詰めし、梱包時のクッション材として再使用することにより紙屑を削減する。
- ・ 工場内の照明を LED ランプに交換することで産業廃棄物となる蛍光管の使用を削減する。
- ・ 裏紙使用と両面コピーの使用について、朝礼時に周知し、紙使用量を削減する。
- ・ シッピングレポートを保管用としてコピーする時に縮小して複数枚を 1 枚にまとめることにより、紙使用量を削減する。
- ・ 帳票を電子化して、電子化した状態で閲覧することにより、紙使用量を削減する。
- ・ 標準作業の見直しをさらに進め、紙の使用量を削減する。
- ・ 電子メールなど電子媒体を利用して、紙の使用量を削減する。

(3) 総排水量

① 上水総排水量 (1 人・1 日当り) 原単位は、目標 39.9 (L/人・日) に対し、実績は、39.8 (L/人・日) で目標を達成した。工水総排水量原単位は、目標 0.518 (m³/時間) に対し、実績は、0.501 (m³/時間) で目標を達成した

② 2023 年は下記の活動により使用量を削減した。

- ・ トイレ・手洗い時の節水の周知を実施した。
- ・ トイレ・洗面台の吐出流量の状況調査と調整を行い、上水使用量を削減した。
- ・ 水漏れが発生していた便器の部品交換を行い、上水使用量を削減した。
- ・ 水洗工程では水圧を適切に管理し、水を使いすぎないようにした。

③ 2024 年以降は、下記の活動により使用量を削減する。

- ・ トイレ・手洗い時の節水の周知を行う。
- ・ トイレ・洗面台の吐出流量の状況調査を継続し、上水使用量を削減する。
- ・ トイレ・洗面台の使用状況調査を行い、水漏れなどの不具合が発生していたら交換を行い、無駄な上水使用量を削減する。

- ・水洗工程では水圧を適切に管理し、水を使いすぎないようにする。
- ・ボイラーの稼働時間を適切に管理し、蒸気を使いすぎないようにする。

(4) グリーン購入（環境にやさしい商品の優先購入）

- ①2023 年は、事務用品として、穴あけパンチ・電池・純正インク・蛍光ペン・レールホルダー修正テープ詰替え・スティックのり・セロハンテープ・テープカッター・テプラテープ・トイレットペーパー・ビニールテープ・プリンタラベルシールを購入し、グリーン商品の購入率は金額ベースで 34%と目標の 30%以上を達成した。
- ②2024 年以降の取組みとして、機器，部品，事務用品を購入する時は、グリーン購入の対象商品があるか調査し、積極的にグリーン購入の対象商品を購入する。

(5) 化学物質

- ①2023 年は、P R T R法対象の化学物質が使用されていないことを調査し、使用されていないことを確認した。
- ②2024 年以降の取組みとして、前年と同様に P R T R法対象の化学物質が新たに使用されていることがないか確認する。

(6) 製品・サービスにおける環境評価

- ①2023 年は、製品出荷時の通い箱の使用徹底及び、製品運搬トラックのエコドライブの周知、ウエハテスト工程の工期を守ることができた。また、電気使用量の少ない製品群の製品処理を平均 41.3%と目標の 30%以上に増やすことができた。保全などの技術的なノウハウをリスト化し、登録・保管することで技術継承を行うことができた。技術スタッフのレベルのすり合わせや、オペレータの教育を計画的に進めることができた。クリーン事業の設備についても毎月の点検を行い、安定稼働を行うことができた。また、再洗浄は月平均 3 件と目標の 5 件以下を達成することができた。
- ②2024 年以降の取組みとして、前年と同様に製品出荷時の通い箱の使用徹底及び、製品運搬トラックのエコドライブの周知及び、ウエハテスト工程の工期を守ることについて継続する。また、電気使用量の少ない製品群の製品処理を増やしていく。技術継承についてはノウハウのリスト化を進めることで『見える化』を行い、継承を進めていく。クリーン事業の設備についても毎月の点検を行い、安定稼働に取り組んでいく。また稼働時間や電気・蒸気使用量工水使用量の削減の為、再洗浄は月 5 件以下を目標として取り組みを進めていく。

(7) 地域への貢献

- ①2023 年は、工場外の周辺道路掃除は、計画通り実施し、目標を達成出来た。
- ②2024 年以降の取組みとして、前年と同様に工場外の周辺道路掃除実施について継続する。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用法令等の遵守状況

(○：できた ×：出来ていない)

適用法令等	要求事項	遵守状況の確認
大気汚染防止法	・ボイラーのばい煙発生施設の届出	○
浄化槽法	・浄化槽の定期点検、定期検査の実施	○
フロン排出抑制法	・簡易定期点検の実施 ・1年毎、3年毎の定期点検の実施	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）	・エネルギー管理者、管理統括者の届出 ・エネルギー管理企画推進者の届出 ・省エネ定期報告、省エネ中長期計画報告	○
工場立地法	・特定工場の新設時の届出・工場立地に関する準則	○
騒音規制法	・特定施設の届出、騒音規制値の遵守	○
水質汚濁防止法	・特定施設の届出、排水基準値の遵守	○
労働安全衛生法	・第1種圧力容器設置届出、ボイラー設置届出 ・エレベータ設置届出	○
健康増進法	・屋内禁煙	○
高圧ガス保安法	・冷凍機高圧ガス製造許可申請、高圧ガス貯蔵所届出	○
消防法	・防火管理者届出 ・ボイラー設置届出	○
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	・廃棄時、リサイクル料金支払い ・廃棄後、家電リサイクル券（④排出者控）にて、メーカーに引き渡された事を確認	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律	・リサイクル料金支払い ・リサイクル券（預託証明書）の保管	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	・一般廃棄物収集運搬業者の契約書作成、許可証確認 ・産業廃棄物収集運搬業者の契約書作成、許可証確認 ・産業廃棄物処分業者の契約書作成、許可証確認	○
電気事業法	電気主任技術者の選任	○

(2) 法令違反、訴訟等の有無

2023年度 環境関連法規への違反は無い。なお、過去3年間、関係当局よりの違反への指摘や訴訟等は無かった。

(3) 苦情の有無

2023年度 苦情の連絡はなかった。なお、過去3年間苦情の連絡は無かった。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

項目	結果	指示・判断（是正すべき内容等）
1.2023年1月～12月目標の達成状況	①二酸化炭素排出量 目標値は達成されており良好。 ②廃棄物 目標値は達成されており良好。 ③総排水量 目標値は達成されており良好。 ④グリーン購入 グリーン購入対象品を積極的に購入しており良好。 ⑤化学物質 PRTR 関連の化学物質が使用されていないことを確認しており良好。 ⑥製品・サービスにおける環境評価 通い箱の使用やエコドライブなど目標通りに実施できており良好。 ⑦地域への貢献 清掃活動など、目標通りに実施できており良好。	①現在の活動で成果が出ているため今回の活動を継続するが、個別のプログラムで一部未達があった。一時的な生産増加であったが、より精度を上げて運営してほしい。 ②現在の活動で成果が出ているため今回の活動を継続する。 ③現在の活動で成果が出ているため今回の活動を継続する。 ④現在の活動で成果が出ているため今回の活動を継続する。 ⑤現在の活動で成果が出ているため今回の活動を継続する。 ⑥現在の活動で成果が出ているため今回の活動を継続する。 ⑦現在の活動で成果が出ているため今回の活動を継続する。
2.環境経営方針	方針内容については問題無し。	活動を継続する。
3.環境経営システムの有効性	問題無く良好。	活動を継続する。
4.その他の事項	なし	なし

まとめ

今年度はグループ会社より、再生・洗浄を行うクリーン事業を一部門として迎え入れ、エコアクションの活動に取り組んできた。これまでグループ企業として協力してきたが、組織の壁がなくなったことで、より密に連携が取れる体制となった。これまで取り組んできた活動を横展開し、目標達成に取り組んでほしい。個別のプログラムでは秋口からの急な生産増加による影響で目標未達があったが、二酸化炭素排出量や廃棄物排出量など数値目標はすべての項目で達成できており、活動の方向性は間違っていない。次年度は3ヵ年計画の2年目となり、さらなる削減が求められるが、目標値を達成できるよう精度を挙げて活動に取り組んでほしい。

2024年1月30日

株式会社 菱進テック

常務取締役工場長 杉田 博